

になって水痘・带状疱疹ウイルスに対する免疫能が低下すると、ウイルスが再活性化して带状疱疹という病態で発症します(図2)。病棟に入院しているような患者は、①原疾患に伴って、②投与されている薬剤によって、③加齢によって(自然に)、免疫能が低下している可能性が高いと考えられます。



図1 水痘
症例：20歳代の男性

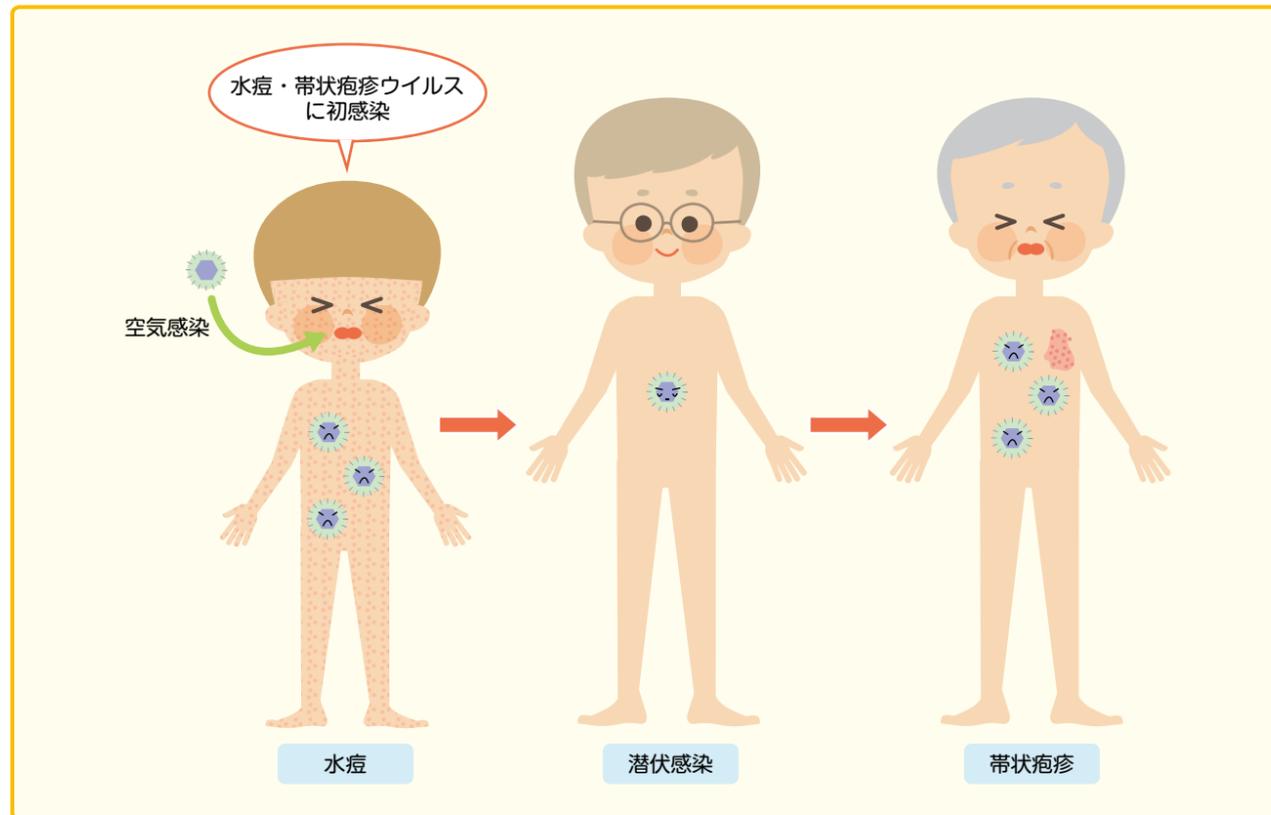


図2 水痘と带状疱疹の関係

臨床像

2～3本の皮神経に沿って带状に水疱が集簇します。これは必ず、身体の左か右のどちらかに生じます。たとえば、左三叉神経の第1枝に沿ってウイルス感染が生じると、前額部や眼周囲に水疱がみられますし(図3)、胸髄神経が侵されると胸部から背部にかけて水疱が带状に並びます(図4)。

带状疱疹が仙髄神経を侵したときには、図5Aのような臨床像を呈します。紅暈を伴った水疱が臀裂を中心に広がっています。臀部はときに褥瘡がみられる部位の1つであるため、褥瘡と見誤るかもしれません。是枝も、褥瘡と誤診されやすい皮膚疾患の1つに挙げて注意を促しています¹⁾。図5Aでは水疱はおおむね右半身に集簇していることが見てとれます。左臀部にも少数の水疱がみられますが、このような現象はしばしば生じるため、带状疱疹を否定するものではありません。よくみると、水疱の中央部が少しへこんでいます。これは“臍窩”と呼ばれ、ヘルペスウイルス群の感染症に共通しています。また、水疱の天蓋が壊死すると必ずといってよいほどその痂皮は黒色に観察されます。症状として、一般には強い痛みを伴いますが、褥瘡を生じるような全身状態が悪い患者ではその訴えは弱いかもしれません。

図5のように仙髄神経が病変となった場合には膀胱内にも水疱が生じ、膀胱刺激症状を訴えることがあります。まれですが、排尿障害から無尿となる場合もあるため、注意が必要です。

図5Bの症例は多くが痂皮化していて、発症から少し時間が経った症例です。図5Cの症例は臀部左側に水疱がみられます。水疱の



図3 三叉神経第1枝領域の带状疱疹
症例：60歳代の女性



図4 胸髄神経領域の带状疱疹
症例は50歳代の男性。水疱が集簇して带状に並んでいる